

令和7年版

消防年報



(令和8年3月26日納車)

檜山広域行政組合 せたな消防署
大成支署
瀬棚分遣所

目 次

せたな町消防の沿革と概要

北檜山町消防の沿革	1 ~ 2
北檜山町消防団歴代団長・署長等	3
北檜山町消防団表彰歴	3 ~ 4
叙勲褒章及び個人表彰歴	4
太櫓町内会婦人防火クラブ表彰歴	4
大成町消防の沿革	5 ~ 6
大成町消防団歴代団長・署長	7
大成町消防団表彰歴	7
叙勲褒章及び個人表彰歴	8
婦人防火クラブ表彰歴	8
瀬棚町消防の沿革	9 ~ 10
瀬棚町消防団歴代団長・署長	11
瀬棚町消防団表彰歴	11 ~ 12
叙勲褒章及び個人表彰歴	12
婦人防火クラブ表彰歴	12
せたな町消防の沿革と概要	13 ~ 15
せたな町消防団歴代団長・署長・支署長	16
せたな町消防団表彰歴	16
叙勲褒章及び個人表彰歴	16 ~ 17

消防機関配置図・町勢・消防機構

消防機関配置図・人口と面積	18
消防機構	19

消防職員・消防団員

消防職員の配置	20
消防職員の勤続年数・階級別年齢・特殊技能資格	21
消防職員の消防学校及び救急救命士養成所派遣状況	22
消防団員の実員と配置・勤続年数	23
消防団員の階級別年齢・職業調べ	24

消防施設の概要

消防施設・消防通信・消防無線	25
消防機械の現況	26
消防水利の設置状況	27

予 防 活 動

危険物施設の分布状況	28
危険物貯蔵状況及び危険物第4類品名調べ	29
消火薬剤等現有調べ	30
予防事務処理状況	31
指定防火対象物調べ	32
指定防火対象物査察結果	33

消 防 活 動 ・ 火 災 統 計

令和7年の出動状況	34 ~ 35
令和7年の火災記録	36

救 急 概 要

救急活動の現況	37
過去5年間の救急出動件数	37
月別救急出動状況	38
時間別救急出動状況	39
曜日別救急出動状況	40
収容先別 男女別 年齢別搬送人員	41

せたな町消防の沿革と概要

北檜山町消防の沿革

北檜山町消防団歴代団長・署長等

北檜山町消防団表彰歴

叙勲褒章及び個人表彰歴

太櫓町内会婦人防火クラブ表彰歴

大成町消防の沿革

大成町消防団歴代団長・署長

大成町消防団表彰歴

叙勲褒章及び個人表彰歴

婦人防火クラブ表彰歴

瀬棚町消防の沿革

瀬棚町消防団歴代団長・署長

瀬棚町消防団表彰歴

叙勲褒章及び個人表彰歴

婦人防火クラブ表彰歴

せたな町消防の沿革と概要

せたな町消防団歴代団長・署長・支署長

せたな町消防団表彰歴

叙勲褒章及び個人表彰歴

北檜山町消防の沿革

明治 44 年 12 月	若松火災予防組合を組織。	昭和 50 年 12 月	北檜山町消防庁舎竣工。 消火栓 2 基及び防火水槽 1 基設置。 (北檜山地区)
大正 2 年 9 月	私設若松消防組を設立。	昭和 51 年 4 月	職員 1 名採用。(消防職員数 1 2 名) 条例改正により北檜山町消防団の定員を 1 8 0 名に改定。 広報車購入。北檜山支署に配備。
大正 5 年 10 月	太櫓火災予防組合を組織。	5 月	消火栓 3 基設置。(北檜山地区)
大正 6 年 2 月	真駒内火災予防組合を組織。	8 月	小型動力ポンプ購入〔B-3 級〕。第 1 分団に配備。
大正 7 年 8 月	太櫓消防組を設立。	昭和 53 年 7 月	小型動力ポンプ 2 台購入。第 3 分団、第 4 分団に配備。
大正 9 年 4 月	公設真駒内消防組を設立。	8 月	防火水槽 1 基設置。(新成地区)
昭和 7 年 7 月	公設若松消防組を設立。	12 月	消火栓 8 基設置。(北檜山地区 3 基、そ の他 5 基) 防火水槽 1 基設置。(北檜山地区)
昭和 12 年 1 月	東瀬棚村消防後援会を設立。	昭和 54 年 1 月	小型動力ポンプ購入。北檜山支署に配備。
昭和 14 年 4 月	東瀬棚消防組が東瀬棚警防団に改組。 太櫓消防組を太櫓警防団に改組。	2 月	日本消防協会長より表彰旗受賞。
昭和 22 年 6 月	東瀬棚警防団が東瀬棚村消防団に改組。	7 月	小型動力ポンプ購入。第 4 分団に配備。
昭和 22 年 8 月	太櫓村警防団が太櫓村消防団に改組。	9 月	防火水槽 2 基設置。(丹羽・太櫓地区)
昭和 28 年 10 月	町制施行により東瀬棚村消防団が東瀬棚 町消防団に改組。	10 月	消防職員待機宿舎 2 戸新築。
昭和 30 年 6 月	町村合併により東瀬棚町消防団と太櫓村 消防団が統合し、北檜山町消防団を設立。 東瀬棚・丹羽・若松・太櫓に各分団を置 く。	12 月	防火水槽 1 基設置。(北檜山地区)
昭和 31 年 3 月	ジープ型消防ポンプ車購入、太櫓分団に 配備。	昭和 55 年 8 月	防火水槽 1 基設置。(徳島地区)
昭和 32 年 3 月	小型動力ポンプ購入及び消防団員服装の 整備。	9 月	防火水槽 1 基設置。(若松地区) 消防ポンプ自動車購入〔CD-I 型〕。 第 3 分団に配備。
昭和 33 年 1 月	東瀬棚市街地マーケットから出火し 1 2 世帯類焼。	10 月	消火栓 1 基設置。(丹羽地区) 防火水槽 1 基設置(富里地区)
昭和 36 年 10 月	消防ポンプ自動車購入。丹羽分団に配備。	昭和 56 年 8 月	消防ポンプ自動車購入〔BS-I 型〕。 第 4 分団に配備。 防火水槽 3 基設置。(豊岡・愛知・丹羽 地区)
昭和 36 年 2 月	消防ポンプ自動車及び小型動力ポンプ購 入配置。	10 月	消防職員待機宿舎 2 戸新築。
昭和 38 年 9 月	小型動力ポンプ購入し、若松分団に配備。	11 月	消火栓 1 基設置。(若松地区)
昭和 38 年 6 月	小型動力ポンプ購入し、太櫓分団に配備。	12 月	消火栓 4 基設置。(徳島 3 基、若松地区 1 基)
昭和 38 年 11 月	消防ポンプ自動車購入配備。	昭和 57 年 4 月	消防職員 1 名採用。(消防職員数 1 3 名)
昭和 39 年 9 月	消防ポンプ自動車購入。太櫓分団に 配備。	6 月	北海道消防協会より竿頭綬を授与。
昭和 40 年 7 月	利別川兜野橋付近で北海道防災総合演習 を開催。	8 月	防火水槽 2 基設置。(丹羽・松岡地区)
昭和 41 年 11 月	消防ポンプ自動車購入。北檜山分団に配 備。	9 月	消防ポンプ自動車購入〔CD-I 型〕。 第 1 分団に配備。 災害通報装置支局増設。(若松地区)
昭和 44 年 1 月	北檜山町消防団の分団名称を北檜山は第 1 分団、丹羽は第 2 分団、若松は第 3 分 団、太櫓は第 4 分団と改称。	昭和 58 年 2 月	日本損害保険協会より救急自動車(2 B 型)寄贈され、北檜山支署に配備。
昭和 46 年 3 月	消防庁長官より竿頭綬を授与。	6 月	北檜山町危険物安全協会設立。(会員事 業数 2 1)
昭和 46 年 12 月	水槽付消防ポンプ自動車購入。北檜山分 団に配備。	7 月	北海道知事より竿頭綬を授与。
昭和 47 年 8 月	第 1 回北海道消防操法訓練大会ポンプ車 の部で北檜山消防団が優勝。	8 月	防火水槽 2 基設置。(北檜山・二俣地区) 太櫓町内会婦人防火クラブ設立。(会員 数 3 6 名)
昭和 49 年 4 月	消防一部事務組合の政令指定を受け、檜 山広域行政組合設立。 檜山広域行政組合消防署北檜山支署、北 檜山町消防団が発足。 (消防職員数 9 名、消防団員数 1 7 7 名) 消火栓 9 基設置。(丹羽地区)	9 月	災害通報装置支局増設。(丹羽地区)
昭和 50 年 11 月	防火水槽 2 基設置。(若松・新成地区)	昭和 59 年 4 月	条例改正により北檜山町消防団の定員を 1 4 0 名に改定。 指令車購入。北檜山支署に配備。
昭和 50 年 2 月	消防ポンプ自動車購入。第 2 分団に配備。	8 月	防火水槽 1 基設置。(北檜山地区)
昭和 50 年 4 月	消防職員 2 名採用。(消防職員数 1 1 名) 日本赤十字社北海道支社より救急自動車 が寄贈され救急業務を開始する。 防火水槽 1 基を設置。(太櫓地区)	12 月	消防ポンプ自動車購入〔CD-II 型〕。 第 1 分団に配備。 新成地区に第 4 分団車庫を新設。
昭和 50 年 10 月	北海道知事より竿頭綬を授与。		

北檜山町消防の沿革

昭和 60 年	9 月	第 4 分団車庫にホース乾燥設備設置。 第 2 分団車庫に物置増設。 防火水槽 2 基設置。(北檜山・丹羽地区)	平成 6 年	4 月	消防職員 1 名採用。(消防職員数 1 4 名)
	11 月	災害通報装置支局を増設。(新成地区)		7 月	防災功労者消防庁長官表彰を受賞。
昭和 61 年	9 月	防火水槽 2 基設置。(北檜山地区) 消火栓 1 基設置。(北檜山地区)		9 月	防災功労者内閣総理大臣表彰を受賞。
	10 月	北海道救急医療情報システムが運用開始される。		10 月	防火水槽 1 基設置。(北檜山地区)
	11 月	災害通報装置支局を増設。(太櫓地区)	平成 7 年	12 月	第 3 分団に標識柱設置。()
昭和 62 年	9 月	防火水槽 1 基設置。(丹羽地区)		2 月	消火栓 4 基設置。(東丹羽地区 3 基、丹羽地区 1 基)
昭和 63 年	2 月	小型動力ポンプ購入 (B-3 級)。第 2 分団に配備。		4 月	消防職員 1 名採用。(消防職員数 1 5 名)
	4 月	条例改正により北檜山町消防団の定員を 1 3 0 名に改定。		11 月	防火水槽 1 基設置。(北檜山地区)
	9 月	消火栓 2 基設置。(北檜山・太櫓地区)		12 月	消火栓 5 基設置。(西丹羽地区)
	10 月	防火水槽 1 基設置。(北檜山地区)	平成 8 年	4 月	条例改正により北檜山町消防団の定員を 1 2 3 名に改定。
	11 月	北海道共済農業協同組合連合会より救急自動車〔2 B 型〕が寄贈され北檜山支署に配備。		10 月	防火水槽 1 基設置。(太櫓地区)
平成 元年	7 月	防火水槽 1 基設置。(北檜山地区)		11 月	防火水槽 1 基設置。(北檜山地区)
	8 月	消防庁舎裏に資機材倉庫 (3 8 . 8 m ²) を新築。		12 月	消火栓 1 基設置。(太櫓地区)
	9 月	消火栓 2 基設置。(富里地区)	平成 9 年	3 月	水槽付消防ポンプ自動車購入 (6 t)。 北檜山消防署に配備。
	11 月	第 3 分団サイレン塔改築。		4 月	消防職員 1 名異動、1 名採用。(消防職員数 1 5 名)
平成 2 年	7 月	組合組織変更に伴い、北檜山支署を北檜山消防署に改称。		6 月	第 4 7 回檜山管内消防総合訓練大会を北檜山町で開催。
	9 月	防火水槽 1 基設置。(北檜山地区)		9 月	防火水槽 1 基設置。(若松地区)
	10 月	檜山管内消防職員技術訓練大会で放水競技部門優勝。		10 月	北海道共済農業協同組合連合会より救急自動車〔2 B 型〕寄贈。北檜山消防署に配備。
	11 月	消火栓 1 基設置。(豊岡地区)	平成 10 年	7 月	消防団員現地教育訓練を開催。 北海道消防操法訓練大会ポンプ車操法の部へ出場。
	12 月	北檜山町消防団団旗を更新。		10 月	防火水槽 1 基移設。(北檜山地区)
平成 3 年	3 月	災害通報装置支局を増設。(北檜山地区)		11 月	北海道知事より表彰旗を授与。
	8 月	防火水槽 1 基設置。(北檜山地区)		12 月	消火栓 1 基設置。(冷水地区)
	9 月	小型携帯無線機 8 台購入。第 1 分団に配備。	平成 11 年	10 月	消火栓 1 基設置。(豊岡地区)
	12 月	小型動力ポンプ付水槽車 (1 0 t) 購入。北檜山消防署に配備。 北檜山町緊急通報システムが運用開始。 (独居高齢者世帯 2 1 戸)	平成 12 年	3 月	有珠山噴火 (3 月 3 1 日) により職員 4 名災害派遣。
	4 月	消防職員 1 名採用。(消防職員数 1 4 名)		4 月	職員 1 名退職、1 名採用。(消防職員数 1 5 名)
平成 4 年	6 月	指令車購入。北檜山消防署に配備。		6 月	消防気象観測装置を設置。(北檜山消防署設置分を更新)
	7 月	庁舎用発電機設置。北檜山消防署に配備。		7 月	条例改正により北檜山町消防団の定員を 1 1 5 名に改定。
	8 月	第 3 回消防団活性化事業ソフトボール大会優勝。		10 月	消防ポンプ自動車更新購入〔CD-II 型〕。第 3 分団に配備。
	10 月	小型携帯無線機 5 台購入。第 2 分団に配備。	平成 13 年	1 月	防火水槽 1 基解体及び移設。(北檜山地区)
	11 月	消防ポンプ自動車購入〔CD-II 型〕。第 2 分団に配備。		7 月	指令車を更新購入。北檜山消防署に配備。
	12 月	消防職員 1 名異動。(消防職員数 1 3 名)	平成 14 年	3 月	消防庁長官より表彰旗を授与。
平成 5 年	7 月	北海道南西沖地震災害発生 (7 月 1 2 日 2 2 時 1 7 分)		10 月	札幌市消防局救急救命士養成所へ職員 1 名入所。
	12 月	防火水槽 1 基移設。(北檜山地区)	平成 15 年	4 月	救急救命士 1 名配置。(現職員)
	12 月	コミュニティー消防センター (第 3 分団) 落成。 消火栓 4 基設置。(西丹羽地区)	平成 16 年	3 月	消防職員 1 名退職。
				5 月	消防職員 1 名採用。(救急救命士)
				11 月	小型動力ポンプ更新購入〔B-2 級〕。第 3 分団に配備。
			平成 17 年	3 月	消防職員 1 名退職。
				4 月	消防職員 1 名採用。
				8 月	小型動力ポンプ付積載車更新購入。第 4 分団に配備。

北檜山町消防団歴代団長、署長等

太 檜 村 (私設消防組～公設消防組～警防団～消防団)

歴代	氏名	任命年月日	歴代	氏名	任命年月日
初代	小泉源吉	大正 8年 8月	六代	栗原梅彦	不 詳
二代	石井又次郎	不 詳	七代	宮本正勝	昭和14年 4月
三代	片石米吉	不 詳	八代	田脇藤太郎	昭和22年 8月
四代	田井重太郎	昭和 7年 7月	九代	佐藤作太郎	昭和25年 6月
五代	白川竹三郎	不 詳			

東 瀬 棚 村 (私設消防組～公設消防組～警防団～消防団)

歴代	氏名	任命年月日	歴代	氏名	任命年月日
初代	小林与作	大正 6年 2月	四代	三浦若松	昭和 8年
二代	江上新太郎	大正11年 4月	五代	平 進	昭和22年 6月
三代	久保田万吉	昭和 5年 4月	六代	久保田寿太	昭和24年 4月

東 瀬 棚 町 消防 団

歴代	氏名	任命年月日
初代	久保田寿太	昭和28年10月

北 檜 山 町 消防 団

歴代	氏名	任命年月日	歴代	氏名	任命年月日
初代	久保田寿太	昭和30年 6月	五代	残間善造	昭和61年12月
二代	武田弥市	昭和45年 9月	六代	佐々木秀雄	平成 4年 9月
三代	廣川俊一郎	昭和53年 8月	七代	小山久則	平成 8年 9月
四代	天満 熙	昭和61年 8月	八代	中島勝則	平成16年11月

檜山広域消防組合消防署北檜山支署

歴代	氏名	任命年月日	歴代	氏名	任命年月日
初代	松谷誠一	昭和49年 4月	三代	川口秀雄	昭和61年 4月
二代	古田 博	昭和52年 4月	四代	佐々木 昭	平成 元年 4月

檜山広域行政組合北檜山消防署

歴代	氏名	任命年月日	歴代	氏名	任命年月日
初代	佐々木 昭	平成 2年 7月	四代	山内 進	平成 9年 4月
二代	武田英二	平成 4年 4月	五代	佐藤松夫	平成16年 4月
三代	岩田靖誉	平成 6年 4月	六代	江上克彦	平成17年 4月

北 檜 山 町 消防 団 表 彰 歴

- 昭和44年 3月 4日 消防庁長官から、成績抜群により竿頭綬を授与された。
- 昭和47年 8月20日 北海道知事から、北海道消防操法訓練大会において、ポンプ車操法の部にて優勝し賞状が授与された。
- 昭和50年10月29日 北海道知事から、成績抜群により竿頭綬を授与された。
- 昭和54年 2月10日 日本消防協会から、成績抜群により表彰旗が授与された。
- 昭和57年 6月11日 北海道消防協会から、成績抜群により竿頭綬を授与された。
- 昭和58年 7月29日 北海道知事から、成績抜群により竿頭綬を授与された。

- 平成 5年11月30日 北海道知事から、平成5年7月12日発生の北海道南西沖地震に際して消防職務を忠実に遂行し被害軽減の業務に対し表彰状が授与された。
- 平成 6年 7月28日 消防庁長官から、北海道南西沖地震災害活動に対する功績に対し表彰状が授与された。
9月 1日 内閣総理大臣から、北海道南西沖地震災害活動に対する功績により表彰状が授与された。
- 平成10年11月13日 北海道知事から、成績抜群により知事表彰旗が授与された。
- 平成14年 3月 6日 消防庁長官から、成績抜群により表彰旗が授与された。
- 平成16年 6月11日 北海道消防協会から、成績抜群により表彰旗が授与された。

叙勲褒章及び個人表彰歴

叙勲・褒章

受章年	氏名	叙勲名	階級
昭和52年・春	斎藤勘太郎	勲七等 青色桐葉章	元 部長
昭和53年・春	武田 弥市	勲五等 瑞宝章	元 団 長
昭和53年・秋	佐藤作太郎	勲五等 瑞宝章	元 副 団 長
昭和54年・春	高橋久雄	勲六等 瑞宝章	元 分 団 長
昭和54年・春	發出勝衛	勲七等 瑞宝章	元 副分団長
昭和46年・春	残間留雄	勲六等 単光旭日章	元 副 団 長
昭和58年・春	山家三郎	勲六等 瑞宝章	元 分 団 長
昭和61年・春	加我 勇	勲六等 単光旭日章	元 副 団 長
平成 6年・春	残間善造	勲五等 瑞宝章	元 団 長
平成 8年・春	安藤新一	勲六等 瑞宝章	元 副 団 長
平成13年・秋	近藤正二	勲六等 単光旭日章	元 副 団 長
平成14年・秋	原田勝恵	勲六等 瑞宝章	元 部 長
平成16年10月	小山久則	瑞宝双光章 (死亡叙勲)	元 団 長

消防庁長官表彰 (永年勤続功労章)

受章年	氏名	受章時の階級	受章年	氏名	受章時の階級
昭和48年	武田 彌市	団 長	平成 2年	近藤正二	副団長
昭和52年	残間留雄	分団長	平成 6年	佐々木秀雄	団 長
昭和52年	高橋久雄	分団長	平成10年	小山久則	団 長
昭和53年	佐藤作太郎	副団長	平成11年	小山英一	副団長
昭和54年	廣川俊一郎	団 長	平成12年	山内 進	副団長
昭和54年	三浦信二	副分団長	平成13年	中島勝則	分団長
昭和55年	加我 勇	分団長	平成15年	中井正男	分団長
昭和56年	山家三郎	分団長	平成17年	結城 匡	副団長
昭和57年	安藤新一	副団長			
昭和58年	残間善造	分団長			
昭和62年	原田勝恵	部 長			

太櫓町内会婦人防火クラブ表彰歴

- 平成 4年 6月19日 北海道消防協会から表彰状が授与された。

大成町消防の沿革

明治 16 年 6 月	佐藤豊吉、工藤金蔵ら有志で私設久遠村消防組を設立。	昭和 52 年 6 月	大倉昭三氏署長代理を解かれる。大成支署長に松本良雄氏、就任「大成町より派遣」（消防職員数 8 名）
明治 29 年 6 月	私設久遠村消防組が公設久遠村消防組に改称。	9 月	防火水槽 1 基設置。（平浜地区）
昭和 12 年 10 月	貝取澗村に防護団が設立。	10 月	水槽付消防ポンプ車購入。大成支署に配備。消防団長久欽次郎氏退任、後任に大島政勝氏が就任。
昭和 14 年 4 月	勅令第二十号警防団令発令により久遠村消防組を解散、久遠村警防団を設立。同じく貝取澗村防護団を解散、貝取澗警防団を設立。	12 月	防火水槽 1 基設置。（上浦地区）
昭和 22 年 7 月	勅令第百八十五号消防団令発令により久遠村警防団を久遠村消防団に改称。定員 1 1 0 名、2 分団制）同じく貝取澗村警防団を貝取澗消防団に改称。（定員 7 5 名、3 分団制）	昭和 53 年 4 月	消防団長久欽次郎氏、勲 5 等双光旭日章を受章。
昭和 30 年 7 月	久遠村と貝取澗村が合併し、大成村となり大成村消防団と改称。（定員 2 0 0 名、6 分団制）	9 月	防火水槽 1 基設置。（富磯地区）日本消防協会より小型動力ポンプ付積載車〔B-3 級〕が寄贈され富磯地区に配備。消防無線携帯移動局購入。（5 W 2 基）
10 月	大成村消防団条例改正により定員 1 8 1 名、5 分団制。	10 月	小型動力ポンプ購入〔B-2 級〕。（タンク車積載）
昭和 36 年 9 月	大成村消防団条例改正により定員 1 4 0 名、5 分団制。	12 月	無線サイレン制御装置設置。
昭和 38 年 2 月	大成村消防団条例改正により定員 1 5 0 名、9 分団制。	昭和 54 年 4 月	元分団長三上豊作氏、勲 7 等瑞宝章を受章。
昭和 40 年 3 月	大成村婦人防火クラブ設立。	5 月	消火栓 3 基設置。（太田地区）
10 月	町政施行により大成町消防団と改称。	9 月	防火水槽 1 基設置（都地区）
昭和 46 年 9 月	小型動力ポンプ付積載車購入〔B-3 級〕。太田地区に配備。	昭和 55 年 4 月	大成町消防団条例改正により定員 1 1 0 名。
昭和 47 年 8 月	小型動力ポンプ付積載車購入〔B-3 級〕。長磯地区に配備。	5 月	消火栓 2 基設置。（久遠・東部地区）
昭和 48 年 9 月	小型動力ポンプ付積載車購入〔B-3 級〕。上浦地区に配備。小型動力ポンプ購入〔B-3 級〕。富磯地区に配備。	9 月	防火水槽 2 基設置（久遠・東部地区）
昭和 49 年 4 月	消防一部事務組合の政令指定を受け、檜山広域行政組合設立。檜山広域行政組合消防署大成支署、大成町消防団が発足。大成支署長に高畑勝一氏、就任。「大成町より派遣」（消防職員数 8 名、消防団員数 1 5 7 名）	11 月	元分団長上野又五郎氏、勲 7 等瑞宝章を受章。
6 月	消火栓 5 基設置。（長磯・貝取澗・平浜・都・上浦地区）	12 月	防火水槽 1 基設置（貝取澗地区）
9 月	消防無線設置。（基地局 1 局・移動局 2 局）	昭和 56 年 4 月	大成町消防団条例改正により定員 1 0 0 名。
11 月	防火水槽 2 基設置。（花歌・上浦地区）	7 月	北海道消防操法大会に大成町消防団、ポンプ車操法の部に出場し準優勝する。
昭和 50 年 4 月	日本損害保険協会より救急自動車寄贈され救急業務を開始する。消火栓 1 基設置。（都地区）	9 月	防火水槽 1 基設置（長磯地区）消火栓 1 基設置。（上浦地区）
10 月	消防無線移動局購入。（救急車に配備）小型動力ポンプ付積載車購入〔B-3 級〕。本陣地区に配備。	昭和 57 年 9 月	防火水槽 1 基設置（長磯地区）
昭和 51 年 4 月	消防職員 1 名採用。（消防職員数 8 名）	昭和 58 年 4 月	大成町消防団条例改正により定員 9 3 名。
8 月	消防職員 1 名異動。	7 月	大成支署長松本良雄氏異動により、派遣を解かれる。大成支署長に櫻井敬一氏、就任「大成町より派遣」（消防職員数 8 名）
9 月	小型動力ポンプ付積載車購入〔B-3 級〕。東部地区に配備。防火水槽 1 基設置。（太田地区）	11 月	元副分団長石橋儀蔵氏、勲 7 等青色桐葉章を受章。
12 月	防火水槽 2 基設置。（宮野・本陣地区）大成町消防団 4 分団制を施行。（定員 1 1 9 名）	昭和 59 年 9 月	副団長早川新太郎氏退任、後任に前田幸之進氏就任。
昭和 52 年 3 月	大成支署長の高畑勝一氏、異動により派遣を解かれる。	昭和 60 年 5 月	消火栓 3 基設置。（長磯地区）
4 月	大成支署長代理に大倉昭三氏、任命される。（消防職員数 7 名）	8 月	防火水槽 1 基設置（宮野地区）
		昭和 61 年 9 月	大成支署に救急医療システム設置。
		11 月	消防ポンプ車購入〔CD-2 型〕。第 3 分団（都）に配備。
		昭和 62 年 3 月	消防職員 1 名異動。
		4 月	元分団長佐藤雪夫氏、勲 6 等瑞宝章を受章。消防職員 2 名採用。（消防職員数 9 名）
		7 月	日本赤十字社北海道支社より救急自動車寄贈される。
		12 月	大成支署消防車庫落成。
		昭和 63 年 9 月	防火水槽 1 基設置（花歌地区）
		11 月	本陣コミュニティ消防センター新築落成。
		平成 元年 7 月	消火栓 3 基設置。（本陣地区）
		9 月	消防ポンプ車購入〔CD-1 型〕。第 2 分団（本陣）に配備。
		11 月	元分団長瀬川吉也氏、勲 6 等瑞宝章を受章。
		平成 2 年 4 月	団長大島政勝氏、藍綬褒章を受章。元副分団長松前幸雄氏、勲 6 等瑞宝章を受章。

大成町消防の沿革

平成 2 年	7 月	組合組織変更に伴い、檜山広域行政組合大成消防署に改称。	4 月	消防職員 1 名採用。「大成町より派遣」(消防職員数 1 3 名)
	9 月	防火水槽 1 基設置 (上浦地区)		元副団長小田桐康雄氏、勲 6 等單光旭日章を受章。
	10 月	消火栓 3 基設置。(都地区)	9 月	檜山管内消防職員技術錬成会が当町にて開催される。
	11 月	上浦コミュニティー消防センター新築落成。(災害通報装置付設)	平成 8 年 11 月	消防副団長酒井悦雄氏退任、後任に木村富造氏就任。
		日本消防協会より、小型動力ポンプ付積載車が寄贈され、第 4 分団 (上浦) に配備。	平成 9 年 4 月	大成町消防団条例改正により定員 1 0 0 名。
平成 3 年	3 月	消防職員 1 名異動。	10 月	消防副団長前田幸之進氏退任、後任に長門紀夫氏就任。
	4 月	消防職員 1 名採用。(消防職員数 9 名)	平成 10 年 10 月	2 B 型救急自動車購入 (Ⅱ 課程仕様車) 大成消防署に配備。
	9 月	防火水槽 1 基設置 (都地区)	平成 11 年 4 月	元分団長杉村福三氏、勲 6 等瑞宝章を受章。
	11 月	長磯コミュニティー消防センター新築落成。(災害通報装置付設)	7 月	富磯地区防火水槽道路拡張に伴い旧富磯分校跡地に移設。
		小型動力ポンプ付積載車購入 [B-2 級]。第 1 分団 (長磯) に配備。	10 月	都地区防火水槽道路拡張に伴いみやこの丘団地前に移設。
平成 4 年	4 月	大成消防署長櫻井敬一氏、異動により派遣を解かれる。 大成消防署長に大倉昭三氏就任。(消防職員数 8 名)	平成 12 年 4 月	元副分団長伊吹昌紫氏、勲 6 等瑞宝章を受章。
		消防職員 2 名採用。(消防職員数 1 0 名)	7 月	大成町消防団条例改正により定員 9 5 名。
	10 月	女性消防団発足。(1 1 名入団)	平成 13 年 4 月	大成町消防団条例改正により定員 9 0 名。 消防士長 蔦谷睦氏、北海道消防学校教官として派遣。(平成 1 4 年 3 月末まで)
	11 月	太田コミュニティー消防センター新築落成。(災害通報装置付設)	8 月	大成町婦人防火クラブで「財団法人自治総合センター」より全国宝くじ普及広報事業としての助成を受け、携帯無線機 (5 W-4 基) ・スモークマシン (煙体験装置) が整備される。
		宮野コミュニティー消防センター新築落成。(災害通報装置付設)	12 月	「安全で災害に強い地域づくり推進事業」により軽可搬動力消防ポンプ [D-1 級] ・心肺蘇生訓練用資機材 (ダミー人形) を整備。
平成 5 年	3 月	小型動力ポンプ付積載車購入 [B-2 級]。第 1 分団 (宮野) に配備。	平成 14 年 4 月	消防団長大島政勝氏退任、後任に長門紀夫氏就任。副団長に大塚泰氏が就任。
	4 月	大成町消防団条例改正により定員 1 1 0 名。	平成 15 年 3 月	消防副団長木村富造氏退任、後任に田原慎一氏就任。 大成消防署長大倉昭三氏退職。他職員 1 名退職。(消防職員数 1 1 名)
	6 月	檜山管内総合消防訓練大会が大成町にて開催される。	4 月	元副団長前田幸之進氏、勲 5 等瑞宝章を受章。 大成消防署長に藤谷博一氏就任。「大成町より派遣」(消防職員数 1 2 名)
	7 月	消防職員 1 名採用。(消防職員数 1 1 名)		消防職員 1 名採用。(消防職員数 1 3 名)
	9 月	小型動力ポンプ付積載車購入 [B-2 級]。第 4 分団 (太田) に配備。	11 月	元団長大島政勝氏、瑞宝双光章を受章。
平成 6 年	4 月	消防職員 1 名採用。(消防職員数 1 2 名)	平成 16 年 5 月	檜山管内消防総合訓練大会が当町にて開催される。
	7 月	本陣コミュニティー消防センターにホース乾燥塔設置。	6 月	消防指揮広報車購入。
	9 月	日本損害保険協会より水槽付消防ポンプ車 [水Ⅱ型] が寄贈される。[A-1 級、2 t] 第 3 分団 (都) に配備。 旧第 3 分団ポンプ車 [CD-2 型] を第 4 分団 (上浦) に配置換え。 旧第 4 分団小型動力ポンプ積載車を第 2 分団 (東部) に配置換え。 消防署事務所及び当直室改築。	11 月	携帯無線機 (5 W-1 基) 消防後援会より寄贈され、大成消防署に配備。 携帯無線機 (5 W-1 基) 購入。大成消防署に配備。
	12 月	消防無線局増設。(大成消防署単独波)		
平成 7 年	4 月	防災行政無線 [遠隔制御局] を大成消防署に配置。		
	12 月	太田コミュニティー消防センター地震津波災害による土地整備のため移設。		
平成 8 年	2 月	大型水槽付消防ポンプ車購入 [A-2 級] 大成消防署に配備。 (水Ⅱ型・水槽容量 6, 0 0 0 ㍓)		
	3 月	太田地区地震津波災害による土地整備のため、防火水槽 1 基移設、1 基増設。		

大成町消防団歴代団長、署長

久 遠 村 (私設消防組～公設消防組～警防団～消防団)

歴 代	氏 名	任命年月日	歴 代	氏 名	任命年月日
初 代	中 川 仙 三	明治19年	四 代	斉 藤 政 治	昭和22年 8月
二 代	中 川 仙 三	昭和14年 4月	五 代	武 藤 金 太 郎	昭和26年 8月
三 代	川 端 和 吉	昭和17年 2月	六 代	武 藤 金 太 郎	昭和28年 9月

貝 取 澗 村 (防護団～警防団～消防団)

歴 代	氏 名	任命年月日	歴 代	氏 名	任命年月日
初 代	松 前 吉 蔵	昭和14年10月	四 代	土 田 耕 助	昭和24年 6月
二 代	三 上 吉 弥	不 詳	五 代	小 島 藤 志 雄	昭和25年 5月
三 代	中 島 勝 蔵	不 詳			

大 成 村 消 防 団

大 成 町 消 防 団

歴 代	氏 名	任命年月日	歴 代	氏 名	任命年月日
初 代	武 藤 金 太 郎	昭和30年10月	初 代	久 保 欽 次 郎	昭和40年10月
二 代	久 保 欽 次 郎	昭和36年 7月	二 代	大 島 政 勝	昭和52年10月
			三 代	長 門 紀 夫	平成14年 4月

檜山広域消防組合消防署大成支署

檜山広域行政組合大成消防署長

歴 代	氏 名	任命年月日	歴 代	氏 名	任命年月日
初 代	高 畑 勝 一	昭和49年 4月	初 代	桜 井 敬 一	平成 2年 7月
二 代	松 本 良 雄	昭和52年 6月	二 代	大 倉 昭 三	平成 4年 4月
三 代	桜 井 敬 一	昭和58年 7月	三 代	藤 谷 博 一	平成16年 4月

大 成 町 消 防 団 表 彰 歴

- 昭和42年11月22日 北海道知事より、竿頭綬を授与された。
- 昭和52年 3月 3日 日本消防協会より、竿頭綬を授与された。
- 昭和56年 7月29日 北海道知事より、北海道消防操法訓練大会において、ポンプ車操法の部に出場し準優勝のため賞状が授与された。
北海道消防協会より、上記において賞状が授与された。
- 10月26日 大成町より、上記において表彰状が授与された。
- 10月30日 北海道知事より、地域防災に尽力した業績に対し表彰旗が授与された。
- 12月10日 全日本海員組合より、昭和56年11月30日、奥尻沖で遭難した祥海丸の乗組員の捜索、救助活動に対し感謝状が授与された。
- 昭和57年 6月20日 大成町長より上記において遭難救護業務遂行による業務に対し、感謝状が授与された。
6月20日 大成町長より昭和57年3月26日発生の山菜取りに伴う行方不明者の捜索活動に対しての業務に対し、感謝状が授与された。
- 平成 5年11月30日 北海道知事より、平成5年7月12日発生の北海道南西沖地震に際して消防職務を忠実に遂行し被害軽減の業務に対し感謝状が授与された。
- 平成 6年 1月 1日 檜山広域行政組合理事長より、北海道南西沖地震の災害活動にあたり民生の安定に尽力した業務に対し竿頭綬が授与された。
7月28日 消防庁長官より、北海道南西沖地震災害活動に対する功績に対し表彰状が授与された。
9月 1日 内閣総理大臣から、北海道南西沖地震災害活動に対する功績により表彰状が授与された。
- 平成 7年 2月10日 日本消防協会から、成績抜群により表彰旗が授与された。
- 平成12年 3月 8日 消防庁長官から、成績抜群により竿頭綬が授与された。

叙勲褒章及び個人表彰歴

叙勲・褒章

受章年	氏名	叙勲名	階級
昭和53年・春	久保欽次郎	勲五等 双光旭日章	元 団 長
昭和54年・春	三上豊作	勲七等 瑞宝章	元分団長
昭和55年・秋	上野又五郎	勲七等 瑞宝章	元分団長
昭和58年・秋	石橋儀蔵	勲七等 青色桐葉賞	元副分団長
昭和62年・春	佐藤雪夫	勲六等 瑞宝章	元分団長
平成元年・秋	瀬川吉也	勲六等 瑞宝章	元分団長
平成2年・春	大島政勝	藍綬褒章	元 団 長
平成2年・2月	松前幸男	勲六等 瑞宝章 (死亡叙勲)	元副分団長
平成8年・春	小田桐康雄	勲六等 単光旭日章	元 副 団 長
平成11年・春	杉村福三	勲六等 瑞宝章	元分団長
平成11年・6月	五十嵐新悦	勲六等 瑞宝章 (死亡叙勲)	元分団長
平成12年・春	伊吹昌紫	勲六等 瑞宝章	元副分団長
平成15年・春	前田幸之進	勲五等 瑞宝章	元 副 団 長
平成15年・秋	大島政勝	瑞宝双光章	元 団 長
平成17年・6月	川村盛吉	瑞宝単光章 (死亡叙勲)	元副分団長

消防庁長官表彰 (永年勤続功労章)

受章年	氏名	受章時の階級	受章年	氏名	受章時の階級
昭和54年	佐藤雪夫	分団長	平成元年	伊吹昌紫	副分団長
昭和55年	酒井悦雄	分団長	平成2年	五十嵐新悦	分団長
昭和56年	早川新太郎	副分団長	平成6年	加藤榮一	副分団長
昭和57年	瀬川吉也	分団長	平成12年	木村富造	副団長
昭和58年	小田桐康雄	副団長	平成14年	岩澤弘	副分団長
昭和59年	前田幸之進	副団長	平成15年	川村盛吉	副分団長
昭和60年	大島政勝	団長	平成16年	小林智	分団長
昭和62年	杉村福三	分団長	平成17年	杉村正利	分団長
平成元年	松前幸男	副分団長			

婦人防火クラブ表彰歴

- 昭和43年11月22日 北海道知事より、昭和40年設立以来火災予防の普及に多大な寄与をし、よって自治体消防発足20周年に当たり、表彰状が授与された。
- 昭和50年 6月26日 消防協会長より、昭和40年3月発足以来今日まで防火活動に協力し防火に尽力され、よって表彰状を授与された。
- 昭和52年 7月 1日 消防庁長官より、多年にわたり火災予防の普及等尽力され、よって表彰状を授与された。
8月21日 檜山広域行政組合管理者より、防火思想を啓発し、民生安定に努め、自治体消防発足30周年を迎えるにあたり、よって感謝状が授与された。

瀬棚町消防の沿革

明治 25 年	7 月	私設消防組を設立。	昭和 36 年	2 月	消防ポンプ自動車購入（小型動力ポンプ積載）。第 1 分団に配備。
	12 月	三本杉橋畔に消防番屋を建設。	昭和 40 年	10 月	消防応援協定締結（瀬棚町、北檜山町、今金町）。
明治 27 年	2 月	勅令第 15 号消防組規則公布、消防の組織、任務、指揮系統が明確となる。			消防ポンプ自動車購入。第 1 分団に配備。
明治 30 年	5 月	公設消防組「瀬棚消防組」を創設。 （初代組頭高野泰次郎、小頭 3 名、消防手 6 7 名）	昭和 42 年	5 月	消防署前にサイレン塔兼ホース乾燥塔設置。
		腕用ポンプ購入配備。	昭和 43 年	9 月	小型動力ポンプ購入。第 2 分団に配備。
明治 42 年	2 月	北海道庁令第 9 号を以て一組を二部制に改組。 大型腕用ポンプ購入配備。	昭和 44 年	4 月	4 代団長津国熊太郎。
不詳		2 代組頭青木與喜蔵、3 代組頭堀田信重。		9 月	消防の日制定（毎月 1 日・15 日）
明治 44 年	4 月	4 代組頭古谷辰治。	昭和 45 年	10 月	第 2 分団 3 班編成を 4 班制に改め第 4 班を北島歌 2 区に設立。
大正 4 年	8 月	森田式第三号型ガソリン自動ポンプ購入配備。		11 月	消防ポンプ自動車購入。第 1 分団に配備。
大正 5 年	5 月	5 月 8 日、消防夫坂内英太郎氏（明治 30 年 7 月 14 日）遭難機帆船救助作業中、激浪にのまれ殉職。 （大正 11 年 8 月殉職碑建立）	昭和 46 年	8 月	第 2 1 回全檜山消防総合訓練大会当町を会場に開催。
大正 6 年	4 月	道庁告示第 45 号を以て、第一部小頭 4 名、消防手 45 名に改正。	昭和 47 年	5 月	北海道消防協会より優良消防団（表彰旗）表彰を受ける。 北海道消防協会より無火災町村表彰（団竿頭綬）を受ける。
大正 7 年	6 月	第二部消防機器置場落成式挙行。		6 月	第 2 分団に小型動力ポンプ付積載車購入配備。
大正 8 年	9 月	第一部長瀧沢瀧助を組頭代理に任命。 （5 代組頭）	昭和 49 年	4 月	消防一部事務組合の政令指定を受け、檜山広域消防組合設立。檜山広域消防組合消防署瀬棚支署、瀬棚町消防団が発足。支署長に杉村勤氏就任。
大正 13 年	4 月	會津町旅館火災の現場功労で北海道警察部長より表彰される。		6 月	小型動力ポンプ付積載車購入。第 2 分団第 4 班に配備。
	10 月	規律厳粛、訓練熟達し他の模範たるを以て、第一部、第二部とも金馬簾一条の使用を認許される。		9 月	消防専用無線電話局の開局。 （固定基地局 1 台、移動局 2 台、携帯局 2 台）
大正 14 年	4 月	森田式ガソリンポンプ購入配備。	昭和 50 年	1 月	消防庁舎落成。（鉄筋コンクリート 1 部 2 階建・延面積 500 ㎡）
昭和 3 年	1 月	6 代組頭菅原治郎。		3 月	非常災害通報設備（無線電子サイレン及び広報装置）を設置、非常時の団員召集、広報に効果をあげる。
	10 月	第一部消防機器置場新築落成。		4 月	消防職員 2 名採用。（消防職員数 7 名）
昭和 4 年	7 月	アメリカ製フォード消防ポンプ自動車購入配置し、消防の近代化を図る。	昭和 51 年	10 月	水槽付消防ポンプ自動車購入。瀬棚支署に配備。
	11 月	7 代組頭真重音吉。	昭和 53 年	4 月	消防職員 1 名採用。（消防職員数 8 名）
昭和 6 年	10 月	組織を改編し一組三部制とする。		11 月	第 1 分団消防車格納庫落成。（消防庁舎横木造平屋建 26.5 ㎡）
昭和 9 年	7 月	8 代組頭滝沢秀吉。			第 2 分団消防車格納庫落成。（島歌 木造平屋建 37.3 ㎡）
昭和 14 年	4 月	勅令第二十号警防団令により瀬棚町警防団を設立。		12 月	日本損害保険協会より救急自動車を寄贈され救急業務を開始する。
昭和 22 年	4 月	勅令第百八十五号消防団発令により瀬棚町消防団を設立。	昭和 54 年	4 月	消防職員 1 名採用。（消防職員数 9 名）
昭和 23 年	3 月	消防組織法施行。自治体消防発足。		7 月	北海道消防操法訓練大会に瀬棚町消防団、ポンプ車操法の部に出場し準優勝する。
	4 月	自治体消防制度により消防本部を設け四部制とする。 初代消防団長古谷喜一郎。		9 月	小型動力ポンプ付積載車購入。第 2 分団第 2 班に配備。
昭和 25 年	8 月	消防ポンプ自動車購入。第 1 分団第 1 部に配備。		10 月	5 代団長奥井悌一。
昭和 26 年		2 代団長・初代消防長山田金一郎。			第 2 分団消防車格納庫落成。（虻羅 木造平屋建 23.2 ㎡）
昭和 29 年	4 月	常備消防士制度を設け、職員 1 名を置き消防常備化となる。	昭和 55 年	5 月	第 1 分団第 1 部に 3 班を設立。小型動力ポンプ付積載車を配備。
昭和 30 年	3 月	3 代団長佐野多三郎。		10 月	広報連絡車購入。瀬棚支署に配備。
	6 月	小型動力ポンプ購入。第 1 分団第 1 部に配備。			開基百周年記念事業として殉難消防員之碑修復再建立。
昭和 31 年	7 月	瀬棚町消防団に分団制を設け、島歌地区に第 2 分団を設立。			北海道知事より竿頭綬受賞。（規律訓練・技能優秀）
昭和 32 年	10 月	新消防庁舎落成移転、本町 401 番地において業務開始。			
昭和 33 年	2 月	日本消防協会優良消防団竿頭綬表彰受章。			
昭和 34 年		小型動力ポンプ購入。第 2 分団に配備。			
昭和 35 年	7 月	第 1 2 回全檜山消防総合訓練大会当町を会場に開催。			

瀬棚町消防の沿革

昭和 56 年 7 月	第 3 1 回檜山管内消防総合訓練大会当町を会場に開催。	平成 9 年 10 月	公設瀬棚消防組発足 1 0 0 周年記念式典挙行。
昭和 57 年 8 月	第 6 回檜山管内婦人防火クラブ指導者研修会当町を会場に開催。		公設瀬棚消防組発足 1 0 0 周年記念誌「瀬棚消防 1 0 0 年のあゆみ」刊行。
昭和 58 年 10 月	小型動力ポンプ付積載車購入。第 1 分団第 3 班に配備。	平成 10 年 2 月	瀬棚町婦人防火クラブ連絡協議会設立。
昭和 60 年 5 月	殉難消防員 7 0 周年慰霊祭挙行。	3 月	自治体消防 5 0 周年記念大会（東京都）。消防庁長官表彰竿頭綬を受章。
昭和 61 年 3 月	消防ポンプ自動車購入。第 1 分団に配備。	4 月	消防職員 1 名採用。（消防職員数 1 3 名）
7 月	第 2 分団発足 3 0 周年記念式典挙行。	平成 11 年 5 月	瀬棚町消防団春季演習を瀬棚町消防団消防総合演習とし実施。
9 月	第 2 分団消防車格納庫落成。（須築 木造平屋建 3 3 . 1 2 4 m ² ）	8 月	函館海洋気象台より感謝状を受ける。
	小型動力ポンプ付積載車購入。第 2 分団第 4 班に配備。	10 月	瀬棚町消防団秋季演習を瀬棚町消防団団員強化訓練とし実施。
10 月	北海道救急医療情報システム設置 1 0 月 1 日運用開始。	平成 12 年 4 月	正午の消防庁舎モーター式サイレン吹鳴試験を毎朝点検に変更する。
昭和 62 年 10 月	衛生通信利用の火災報知専用電話設置。	10 月	殉難消防員 8 5 周年慰霊祭挙行。
平成 2 年 7 月	組合組織変更に伴い檜山広域行政組合瀬棚消防署、檜山広域行政組合瀬棚町消防団に改称。	平成 13 年 4 月	瀬棚町消防団副団長 2 名制、第 1 分団第 2 部第 3 班（元浦）を第 2 分団第 2 部第 1 班へ移行。
12 月	6 代団長用名要一。		馬場川防潮水門遠隔装置庁舎内設置。
	消防庁舎車庫増築。（7 9 . 4 2 m ² ）	8 月	平成 1 3 年度北海道防災総合訓練。瀬棚町を会場に開催。
平成 3 年 7 月	第 4 1 回檜山管内消防総合訓練大会当町を会場に開催。	10 月	水槽付消防ポンプ自動車購入。瀬棚消防署に配備。
	北海道消防操法訓練大会に瀬棚町消防団、ポンプ車操法の部に出場し優勝する。	平成 14 年 6 月	第 5 1 回檜山管内消防総合訓練大会当町を会場に開催。
11 月	小型動力ポンプ付水槽車購入。瀬棚消防署に配備。	平成 15 年 5 月	消防職員 1 名採用。「救急救命士」
平成 4 年 2 月	日本自動車工業会より救急自動車の寄贈される。	12 月	消防職員 1 名退職。（消防職員数 1 3 名）
6 月	消防指令車購入。瀬棚消防署に配備。	平成 16 年 3 月	消防庁長官表彰 表彰旗受章。
11 月	北海道知事より優良消防団表彰（表彰旗）受章。	5 月	札幌市消防局救急救命士養成所へ職員 1 名入所。
平成 5 年 7 月	北海道南西沖地震津波災害での防災功労受賞。	7 月	北海道消防操法訓練大会に瀬棚町消防団、小型ポンプの部に出場。
11 月	北海道知事表彰状。	平成 17 年 2 月	日本消防協会定例表彰 表彰旗受章。
12 月	消防ポンプ自動車購入。第 1 分団に配備。	3 月	消防職員 1 名退職。
平成 6 年 1 月	北海道消防協会長竿頭綬。	4 月	消防職員 1 名採用。「救急救命士」（消防職員数 1 3 名）
	檜山広域行政組合理事長竿頭綬。		
4 月	消防職員 2 名採用。（消防職員数 1 1 名）		
7 月	消防庁長官表彰状。		
8 月	油圧救助器具購入。救急救助活動体制の強化を図る。		
9 月	内閣総理大臣表彰状。		
11 月	瀬棚町長感謝状。		
平成 7 年 4 月	消防職員 1 名採用。（消防職員数 1 2 名）		
平成 8 年 3 月	消防職員 1 名退職。		
4 月	消防署長に三浦弥四郎氏就任。		
	消防職員 1 名採用。（消防職員数 1 2 名）		
5 月	公設瀬棚消防組発足 1 0 0 周年記念事業連絡協議会設置。		
9 月	消防庁舎事務室増築（4 5 . 7 2 m ² ）		
10 月	第 2 分団発足 4 0 周年記念式典挙行。		
	消防ポンプ自動車購入。第 2 分団に配備。		
平成 9 年 1 月	瀬棚町防災行政無線施設開局。		
3 月	消防職員 1 名退職。		
4 月	瀬棚消防署課制を設け 2 課 4 係とする。		
	消防職員 1 名採用。（消防職員数 1 2 名）		
10 月	消防フェア開催。		

瀬棚町消防団歴代団長、署長

瀬棚消防組（私設）

歴代	氏名	任命年月日
初代	渡辺 亀吉	明治25年 7月

瀬棚消防組（公設）

歴代	氏名	任命年月日	歴代	氏名	任命年月日
初代	高野泰次郎	明治30年 5月	五代	瀧澤 瀧助	大正 8年 9月
二代	青木興喜蔵	不詳	六代	菅原 治郎	昭和 3年 1月
三代	堀田 信重	不詳	七代	眞重 音吉	昭和 4年11月
四代	古谷 辰治	明治44年 4月	八代	滝沢 秀吉	昭和 9年 7月

瀬棚町警防団

歴代	氏名	任命年月日
初代	滝沢 秀吉	昭和14年 4月

瀬棚町消防団

歴代	氏名	任命年月日	歴代	氏名	任命年月日
初代	古谷喜一郎	昭和23年 4月	五代	奥井 悌一	昭和54年10月
二代	山田金一郎	昭和26年	六代	用名 要一	平成 2年12月
三代	佐野多三郎	昭和30年 3月	七代	熊野 主税	平成17年 4月
四代	津國熊太郎	昭和44年 4月			

檜山広域消防組合消防署瀬棚支署

檜山広域行政組合瀬棚消防署

歴代	氏名	任命年月日	歴代	氏名	任命年月日
初代	杉村 勤	昭和49年 4月	初代	杉村 勤	平成 2年 7月
			二代	三浦 弥四郎	平成 8年 4月

瀬棚町消防団表彰歴

大正13年 5月	北海道警察部長から、會津町旅館火災の現場功勞により表彰状を授与された。
昭和33年 2月	日本消防協会から、優良消防団により竿頭綬が授与された。
昭和47年 5月	北海道消防協会から、優良消防団により表彰旗、表彰状を授与された。 日本消防協会から、竿頭綬を授与された。
昭和54年 7月	北海道知事から、北海道消防操法訓練大会において、ポンプ車操法の部に出場し準優勝のため賞状が授与された。
昭和55年10月	北海道知事から、技能優秀により竿頭綬が授与された。
平成 3年 7月	北海道知事から、北海道消防操法訓練大会において、ポンプ操法の部に出場し優勝のため賞状が授与された。
平成 5年11月30日	北海道知事から、平成5年7月12日発生の北海道南西沖地震に際して消防職務を忠実に遂行し被害軽減の業務に対し感謝状が授与された。
平成 6年 1月 1日	檜山広域行政組合理事長から、北海道南西沖地震の災害活動に対し、竿頭綬が授与された。 北海道消防協会長から、北海道南西沖地震の災害活動に対し、竿頭綬が授与された。
7月28日	消防庁長官から、北海道南西沖地震災害活動に対する功績に対し表彰状が授与された。
9月 1日	内閣総理大臣から、北海道南西沖地震災害活動に対する功績により表彰状が授与された。
11月 3日	瀬棚町長から、北海道南西沖地震の災害活動に対し、感謝状が授与された。

平成10年 3月 消防庁長官から、成績抜群により竿頭綬が授与された。
 平成16年 3月 消防庁長官から、表彰旗が授与された。
 平成17年 2月 日本消防協会から、表彰旗が授与された。

叙勲褒章及び個人表彰歴

叙勲・褒章

受章年	氏名	叙勲名	階級
昭和47年・春	佐野多三郎	勲五等 瑞宝章	元 団 長
昭和60年・春	津國熊太郎	藍綬褒章	元 団 長
平成 3年・秋	津國熊太郎	勲五等 双光旭日章	元 団 長
平成 6年・秋	西村信一郎	勲六等 単光旭日章	元 副 団 長
平成 9年・秋	奥井 悌一	勲五等 瑞宝章	元 団 長
平成10年・秋	五十嵐藤一郎	勲六等 瑞宝章	元 分 団 長
平成13年・秋	廣澤 松雄	勲六等 瑞宝章	元 副 団 長

消防庁長官表彰（永年勤続功労章）

受章年	氏名	受章時の階級	受章年	氏名	受章時の階級
昭和40年	佐野多三郎	団 長	平成 7年	福士敏雄	副団長
昭和51年	津國熊太郎	団 長	平成11年	新保静夫	分団長
昭和57年	奥井 悌一	団 長	平成12年	瀧澤幸男	分団長
昭和60年	廣澤 松雄	副団長	平成14年	長内 猛	分団長
昭和61年	西村信一郎	分団長	平成15年	伏見 司	分団長
昭和62年	五十嵐藤一郎	分団長			

婦人防火クラブ表彰歴

昭和52年 8月21日 檜山広域行政組合管理者から、須築婦人防火クラブに自治体消防発足30周年にあたり、感謝状が贈られる。
 昭和54年 6月 8日 北海道消防協会長から、須築婦人防火クラブに表彰状が贈られる。
 昭和61年 7月13日 瀬棚町長から、第2分団発足30周年にあたり、須築婦人防火クラブに感謝状が贈られる。
 平成 6年10月20日 北海道少年婦人防火協議会長から、共和婦人防火クラブに表彰状が贈られる。
 平成 9年10月12日 瀬棚町長から、公設消防組発足100周年にあたり、須築婦人防火クラブに感謝状が贈られる。
 瀬棚町長から、公設消防組発足100周年にあたり、島歌婦人防火クラブに感謝状が贈られる。
 瀬棚町長から、公設消防組発足100周年にあたり、虻羅婦人防火クラブに感謝状が贈られる。
 瀬棚町長から、公設消防組発足100周年にあたり、共和婦人防火クラブに感謝状が贈られる。

せたな町消防の沿革と概要

- 平成17年 9月 1日 北檜山町、瀬棚町、大成町の3町が合併し、「せたな町」となる。
3町合併による組織変更に伴い、北檜山消防署はせたな消防署へ、瀬棚消防署はせたな消防署瀬棚支署へ、大成消防署はせたな消防署大成支署へ改称され、1署2支署体制となる。
北檜山町消防団はせたな町北檜山消防団へ、瀬棚町消防団はせたな町瀬棚消防団へ、大成町消防団はせたな町大成消防団へ改称となる。
- 10月 3日 札幌市消防局救急救命士養成所へ大成支署職員1名入所する。
- 11月 1日 災害対応特殊救急自動車及び高度救命処置用資機材等購入、瀬棚支署に配備される。
- 平成18年 1月16日 携帯電話119番通報運用開始される。
3月31日 消防職員1名退職（せたな消防署）する。
4月 1日 消防職員（救急救命士）1名採用（せたな消防署）される。
7月20日 北海道消防操法訓練大会ポンプ車操法の部に、せたな町大成消防団が出場する。
8月31日 小型動力ポンプ付積載車購入、瀬棚消防団第2分団に配備される。
10月13日 北海道共済農業協同組合連合会より救急自動車（2B型）寄贈され、せたな消防署に配備する。
- 平成19年 7月 1日 第56回檜山管内消防総合訓練大会が、せたな町（北檜山区）にて開催される。
9月18日 札幌市消防局救急救命士養成所へ大成支署職員1名入所する。
- 平成20年 3月31日 消防職員1名退職、消防職員12名となる。（大成支署）
9月 1日 消防職員1名採用、消防職員13名となる。（大成支署）
9月16日 札幌市消防局救急救命士養成所へせたな消防署職員1名入所する。
9月30日 消防職員1名退職、消防職員14名となる。（せたな消防署）
10月 9日 北海道共済農業協同組合連合会より救急自動車（2B型）寄贈され、大成支署に配備する。
- 平成21年 4月 1日 消防職員1名採用、消防職員15名となる。（せたな消防署）
消防職員1名採用、消防職員14名となる。（大成支署）
9月17日 小型動力ポンプ付積載車購入。
瀬棚消防団第2分団須築「ダイハツ軽4WD デッキバン消防車」に配備され、同タイプ車両は道内において初納入となる。
9月28日 北檜山消防団第1分団に消防ポンプ自動車（CD-I型）更新配備される。
- 平成22年 3月31日 消防職員1名退職、消防職員13名となる。（大成支署）
9月29日 総務省消防庁より「消防団救助資機材搭載型車両」が無償貸与され、（大成消防団第4分団上浦に）納入・配備となる。
- 平成23年 4月 1日 消防職員（救急救命士）1名採用（せたな消防署）
5月 1日 消防職員（救急救命士）1名採用（瀬棚支署）
9月27日 せたな町消防庁舎建設等検討審議会条例が制定、設置される。
- 平成24年 5月31日 せたな町消防庁舎建設等検討審議会から、せたな町長へ答申。
①消防組織の集約化。（せたな消防署と瀬棚支署の組織統合）
②消防庁舎の立替等。（3署の消防庁舎について整備、改修が必要）
10月 1日 消防職員1名採用、消防職員16名となる。（せたな消防署）
11月 7日 北檜山消防団第1分団に消防ポンプ自動車（CD-II型）更新配備される。

- 平成25年 3月31日 消防職員2名退職。消防職員11名（瀬棚支署）
4月 1日 瀬棚支署へ各1名異動。（せたな消防署及びせたな町役場より各1名）
消防職員15名。（せたな消防署）
消防職員13名。（瀬棚支署）
5月 1日 消防職員（救急救命士）2名採用（せたな消防署、大成支署）
9月30日 消防職員1名退職（大成支署）
10月 1日 条例改正により、せたな町北檜山消防団の定員を108名に改定。
- 平成26年 3月31日 消防職員2名退職、消防職員11名（瀬棚支署）
4月 1日 消防職員（救急救命士）2名採用。（大成支署、瀬棚支署）
9月 1日 札幌市消防局救急救命士養成所へ大成支署職員1名入校。
10月 1日 指導的救命士養成のため大成支署より1名研修。
- 平成27年 3月31日 消防職員1名退職。消防職員14名。（せたな消防署）
9月 2日 札幌市消防局救急救命士養成所へ3名入校。
（せたな消防署職員1名、瀬棚支署職員1名、大成支署職員1名）
10月 4日 事比羅神社において、殉職消防員慰霊祭（殉職後100周年）挙行
- 平成28年 3月31日 消防職員2名派遣を解く。（瀬棚支署、大成支署）
消防職員1名退職、消防職員10名（瀬棚支署）
4月 1日 消防組織再編に伴い、せたな消防署と瀬棚支署を統合。
せたな消防署及び瀬棚分遣所と改称し、1署1支署1分遣所体制
となる。消防職員37名
（せたな消防署23名、瀬棚分遣所1名、大成支署13名）
消防職員1名せたな消防署から檜山広域行政組合消防本部へ異動。
消防職員（救急救命士）1名採用（せたな消防署）
6月30日 消防職員1名退職。（せたな消防署）
10月 1日 消防職員（救急救命士）1名採用（せたな消防署）
12月20日 瀬棚消防団第1分団に水槽付ポンプ自動車（圧縮空気泡消火装置搭載）
に更新し配備される。
- 平成29年 3月31日 消防職員3名退職。消防職員35名。（せたな消防署23名、大成支署12名）
4月 1日 消防職員（救急救命士）1名採用（せたな消防署）
7月 1日 消防職員（救急救命士）1名採用（大成支署）
7月14日 北海道消防操法訓練大会において、小型ポンプ操法の部に瀬棚消防団が出場し、優良賞を獲得
する。
- 平成30年 3月18日 北海道共済農業協同組合連合会より救急自動車（2B型）寄贈され、せたな消防署に配備する。
3月31日 消防職員1名、檜山広域行政組合消防本部異動を解くとともに、退職。
消防職員36名（せたな消防署23名、大成支署13名）
9月 4日 札幌市消防局救急救命士養成所へせたな消防署より1名入校。
- 平成31年 1月23日 大成消防団第2分団に消防ポンプ自動車（CD-I型）更新配備される。
3月31日 消防職員2名退職。消防職員34名。（せたな消防署22名、大成支署12名）
4月 1日 消防職員（救急救命士）2名採用。消防職員36名。（せたな消防署23名、大成支署13名）
- 令和 元年 6月30日 第64回檜山管内消防総合訓練大会が、せたな町（瀬棚区）にて開催される。
9月26日 せたな消防署に指令車が更新配備される。
- 令和 2年 4月 1日 消防職員1名採用。消防職員37名。（せたな消防署24名、大成支署13名）
- 令和 3年 3月26日 せたな消防署に災害対応特殊救急自動車が更新配備される。
3月31日 せたな消防署2名退職。消防職員35名。（せたな消防署22名、大成支署13名）

- 令和 3年 3月31日 大成消防団第1分団（貝取潤）総員3名のうち2名が退団する。車両運用が困難のため、残りの団員は他の分団へ編入、車両及び車庫は引き揚げとなり、車両は、令和3年11月19日で廃車、車庫及び土地は、令和4年3月8日付け行政組合からせたな町へ無償譲渡契約した。
- 5月31日 大成消防団第4分団（太田）令和3年5月31日付けで総員2名の団員が退団する。車両運用が困難のため、車両及び車庫は引き揚げとなり、車両は、令和3年11月19日で廃車、車庫は、令和4年3月8日付けで行政組合からせたな町へ無償譲渡契約した。
- 9月29日 大成消防団第1分団に積載車更新配備される。
- 10月 1日 消防職員1名採用。消防職員36名。（せたな消防署23名、大成支署13名）
- 12月31日 消防職員1名退職。消防職員35名（せたな消防署22名、大成支署13名）
- 令和 4年 6月15日 消防職員1名退職。消防職員34名（せたな消防署21名、大成支署13名）
- 9月28日 北檜山消防団第2分団に消防ポンプ自動車（CD-I型）更新配備される。
- 9月30日 消防職員1名退職。消防職員33名。（せたな消防署21名、大成支署12名）
- 令和 5年 3月31日 消防職員1名退職。消防職員32名。（せたな消防署21名、大成支署11名）
- 4月 1日 消防職員3名採用。消防職員35名。（せたな消防署22名、大成支署13名）
- 令和 6年 3月31日 消防職員1名退職。消防職員34名。（せたな消防署21名、大成支署13名）
- 4月 1日 消防職員2名採用。消防職員36名。（せたな消防署23名、大成支署13名）
- 7月 4日 消防職員1名退職。消防職員35名。（せたな消防署23名、大成支署12名）
- 令和 7年 3月31日 消防職員1名退職。消防職員34名。（せたな消防署22名、大成支署12名）
- 4月 1日 消防職員1名採用。消防職員1名暫定再任用。消防職員36名。
（せたな消防署23名、大成支署13名）
- 5月 1日 消防職員1名退職。消防職員35名。（せたな消防署22名、大成支署13名）
- 6月26日 大成支署に指令車が更新配備される。
- 9月 6日 札幌市消防局救急救命士養成所へせたな消防署より1名入校。
- 令和 8年 3月26日 せたな消防署に災害対応特殊水槽付消防ポンプ自動車（II型）が更新配備される。
- 3月31日 北檜山消防団第4分団（新成）人員不足により運用が困難のため、解散。車両及び車庫は引き揚げ。
- 4月 1日 消防職員1名採用。消防職員36名。（せたな消防署23名、大成支署13名）

せたな町消防歴代団長・署長・支署長

【消防団】

団名	歴代	氏名	拝命年月日
北檜山消防団	初代	中島勝則	平成17年 9月 1日
	二代	氏家忠幸	平成19年 4月 1日
	三代	酒井誠一	平成27年 4月 1日
	四代	斉藤茂則	令和 4年 4月 1日
瀬棚消防団	初代	熊野主税	平成17年 9月 1日
大成消防団	初代	長門紀夫	平成17年 9月 1日
	二代	太田豊一	平成31年 4月 1日

【消防署】

団名	歴代	氏名	拝命年月日
せたな消防署	初代	江上克彦	平成17年 9月 1日
	二代	松本貢	平成19年 4月 1日
	三代	山崎界	平成23年 4月 1日
	四代	須藤純一	平成27年 4月 1日
	五代	葛谷睦	令和 6年 4月 1日
大成支署	初代	藤谷博一	平成17年 9月 1日
	二代	近藤博司	平成21年 4月 1日
	三代	名平継義	平成22年 4月 1日
	四代	樋口靖	平成26年 4月 1日
	五代	久貴谷久男	平成28年 4月 1日
	六代	葛谷睦	平成29年 4月 1日
	七代	鈴木豪	令和 6年 4月 1日
瀬棚支署	初代	三浦弥四郎	平成17年 9月 1日
	二代	中村良則	平成25年 4月 1日

(注) 瀬棚支署については、消防組織再編に伴い瀬棚分遣所へ移行のため二代で終了。

せたな町各消防団表彰歴

平成18年 3月 8日 消防庁長官より大成消防団へ成績優秀につき表彰旗が授与された。

叙勲・褒章及び個人表彰歴

【叙 位】

受章年	所属	氏名	叙勲名	階級
平成20年 2月13日	大成消防団	大島政勝	従六位	元 団 長
平成25年 1月19日	瀬棚消防団	津國 熊太郎	従六位	元 団 長

【叙勲・褒章】

受章年	所属	氏名	叙勲名	階級
平成17年 9月26日	瀬棚消防団	福士敏雄	瑞宝双光章(死亡叙勲)	元 副 団 長
平成18年 4月 7日	北檜山消防団	小山英一	瑞宝双光章(死亡叙勲)	元 副 団 長
平成18年 4月29日	瀬棚支署	杉村 勤	瑞宝双光章	元 司 令 長
平成18年 4月29日	大成消防団	木村富造	瑞宝単光章	元 副 団 長
平成20年11月 3日	瀬棚消防団	瀧澤幸男	瑞宝単光章	元 副 団 長
平成21年11月 3日	北檜山消防団	中井正男	瑞宝単光章	元 副 団 長
平成21年11月 3日	瀬棚消防団	用名要一	瑞宝双光章	元 団 長
平成22年 4月29日	北檜山消防団	中島勝則	瑞宝単光章	元 団 長
平成22年11月 3日	せたな消防署	山内進	瑞宝単光章	元 司 令 長
平成22年11月 3日	瀬棚消防団	長内猛	瑞宝単光章	元 分 団 長
平成23年 4月29日	北檜山消防団	山内進	瑞宝単光章	元 副 団 長
平成24年 4月29日	せたな消防署	佐藤松夫	瑞宝単光章	元 司 令 長
平成25年11月 3日	せたな消防署	江上克彦	瑞宝単光章	元 司 令 長
平成25年11月 3日	大成消防団	小林智	瑞宝単光章	元 分 団 長
平成25年11月 3日	瀬棚消防団	福井利光	瑞宝単光章	元 分 団 長
平成26年 4月18日	瀬棚消防団	伏見司	瑞宝単光章(死亡叙勲)	元 分 団 長
平成26年 6月 1日	北檜山消防団	岡本信男	瑞宝単光章(高齢者叙勲)	元 副 分 団 長
平成26年11月 3日	瀬棚消防団	新保静夫	瑞宝単光章	元 副 団 長
平成27年 4月29日	大成消防団	岩澤弘	瑞宝単光章	元 副 分 団 長
平成27年11月 3日	大成支署	大倉昭三	瑞宝双光章	元 司 令 長
平成28年 4月29日	北檜山消防団	氏家忠幸	瑞宝双光章	元 団 長
平成28年 4月29日	瀬棚消防団	三浦邦夫	瑞宝単光章	元 分 団 長
平成28年 4月29日	瀬棚支署	三浦弥四郎	瑞宝双光章	元 司 令 長
平成28年11月 3日	瀬棚消防団	中村満雄	瑞宝単光章	元 分 団 長
平成29年 4月 1日	北檜山消防団	宮本正彰	瑞宝単光章(高齢者叙勲)	元 分 団 長
平成29年 4月29日	北檜山消防団	高橋昭	瑞宝単光章	元 分 団 長
平成29年11月 3日	瀬棚消防団	五十嵐喜代春	瑞宝単光章	元 分 団 長
平成29年11月 3日	北檜山消防団	川上進	瑞宝単光章	元 副 分 団 長
平成29年12月 9日	大成消防団	大塚泰淳	瑞宝単光章(死亡叙勲)	元 副 団 長
平成30年 4月29日	大成消防団	杉村正利	瑞宝単光章	元 分 団 長

【叙勲・褒章】

受章年	所 属	氏 名	叙勲名	階 級
令和 元年11月 3日	大成消防団	長 門 紀 夫	瑞宝双光章	元 団 長
令和 元年11月 3日	せたな消防署	山 崎 昇	瑞宝单光章	元 司 令
令和 2年 2月 1日	北檜山消防団	阿 部 武 夫	瑞宝单光章（高齢者叙勲）	元 分 団 長
令和 2年 4月29日	北檜山消防団	瀬 戸 光 成	瑞宝单光章	元 分 団 長
令和 2年 4月29日	瀬 棚 支 署	古 畑 勝 利	瑞宝单光章	元 司 令
令和 2年 4月29日	大 成 支 署	沖 崎 裕 次	瑞宝单光章	元 司 令
令和 3年 4月29日	瀬 棚 支 署	山 崎 利 幸	瑞宝单光章	元 司 令
令和 3年11月 3日	大 成 支 署	福 田 慎 二	瑞宝单光章	元 司 令
令和 3年11月 3日	大 成 支 署	横 山 猛	瑞宝单光章	元 司 令
令和 4年 4月29日	瀬 棚 消 防 団	福 井 勉	瑞宝单光章	元 副 団 長
令和 4年 4月29日	瀬 棚 支 署	加 賀 谷 正 敏	瑞宝单光章	元 司 令
令和 4年 4月29日	北檜山消防団	細 川 稔	瑞宝单光章	元 分 団 長
令和 4年 4月29日	せたな消防署	西 田 秀 秋	瑞宝单光章	元 司 令
令和 5年 4月29日	北檜山消防団	栗 城 優 美	瑞宝单光章	元 副 分 団 長
令和 5年 4月29日	北檜山消防団	菱 田 行 哲	瑞宝单光章	元 分 団 長
令和 5年11月 3日	北檜山消防団	玉 木 久 志	瑞宝单光章	元 分 団 長
令和 6年 4月29日	瀬 棚 消 防 団	内 木 勇 一	瑞宝单光章	元 分 団 長
令和 6年 4月29日	大 成 支 署	久 貴 谷 久 男	瑞宝单光章	元 司 令
令和 6年11月 3日	せたな消防署	佐 々 木 栄	瑞宝单光章	元 司 令
令和 7年 4月29日	大 成 消 防 団	西 村 秋 雄	瑞宝单光章	元 分 団 長
令和 7年11月 3日	瀬 棚 支 署	福 士 孝 之	瑞宝单光章	元 司 令

【消防庁長官表彰】（永年勤続功労章）

受章年	所 属	氏 名	受章時の階級
平成18年 3月 3日	瀬 棚 消 防 団	三 浦 邦 夫	副分団長
平成18年 3月 3日	北檜山消防団	氏 家 忠 幸	副 団 長
平成19年 3月 2日	せたな消防署	江 上 克 彦	司 令
平成19年 3月 2日	瀬 棚 消 防 団	福 井 利 光	分 団 長
平成20年 3月 7日	瀬 棚 消 防 団	熊 野 主 税	団 長
平成20年 3月 7日	北檜山消防団	瀬 戸 光 成	副 団 長
平成21年 3月 7日	北檜山消防団	酒 井 誠 一	副 団 長
平成21年 3月 6日	瀬 棚 支 署	三 浦 弥 四 郎	司 令
平成22年 3月 5日	北檜山消防団	高 橋 昭	分 団 長
平成22年 3月 5日	瀬 棚 支 署	山 崎 利 幸	司 令
平成23年 3月 3日	北檜山消防団	川 上 進	副分団長
平成24年 3月 8日	北檜山消防団	菱 田 行 哲	副分団長
平成24年 3月 8日	瀬 棚 消 防 団	中 村 正 則	副 団 長
平成25年 3月 6日	瀬 棚 消 防 団	中 村 満 雄	副分団長
平成26年 3月 5日	北檜山消防団	細 川 稔	副分団長
平成26年 3月 5日	瀬 棚 消 防 団	五十嵐 喜代春	副分団長
平成27年 3月 6日	大 成 消 防 団	長 門 紀 夫	団 長
平成27年 3月 6日	瀬 棚 消 防 団	福 井 勉	副 団 長
平成27年 3月 6日	せたな消防署	山 崎 昇	司 令
平成28年 3月 9日	大 成 消 防 団	田 原 慎 一	副 団 長
平成29年 3月 8日	北檜山消防団	大 湯 圓 郷	分 団 長
平成29年 3月 8日	瀬 棚 消 防 団	内 木 勇 一	分 団 長
平成29年 3月 8日	せたな消防署	西 田 秀 秋	司 令
平成29年 3月 8日	大 成 消 防 団	大 塚 泰 淳	副 団 長
平成30年 3月 7日	北檜山消防団	斉 藤 茂 則	副 団 長
平成30年 3月 7日	せたな消防署	佐 々 木 栄	司 令
平成30年 3月 7日	大 成 消 防 団	近 藤 富 士 男	副分団長
平成31年 3月 6日	大 成 消 防 団	田 中 勇 悦	副分団長
令和 2年 3月 4日	北檜山消防団	栗 城 優 美	副分団長
令和 3年 3月10日	大 成 消 防 団	瀬 川 正 義	副 団 長
令和 3年 3月10日	北檜山消防団	玉 木 久 志	分 団 長
令和 3年 3月10日	瀬 棚 消 防 団	加 我 由 美	分 団 長
令和 3年 3月10日	瀬 棚 分 遣 所	福 士 孝 之	司 令
令和 4年 3月 2日	大 成 消 防 団	山 崎 光 和	分 団 長
令和 4年 3月 2日	瀬 棚 消 防 団	佐 鯉 初 美	副分団長
令和 5年 3月10日	大 成 消 防 団	太 田 豊 一	団 長
令和 5年 3月10日	瀬 棚 消 防 団	大 島 正 史	分 団 長
令和 6年 3月 4日	瀬 棚 消 防 団	桂 田 富 次	副 団 長
令和 6年 3月 4日	北檜山消防団	長 内 良 一	副 団 長
令和 6年 3月 4日	せたな消防署	須 藤 純 一	司 令
令和 7年 3月 5日	北檜山消防団	小 島 敏 人	副 団 長
令和 8年 3月 4日	大 成 消 防 団	榎 田 道 廣	副 団 長
令和 8年 3月 5日	北檜山消防団	太 田 喬	分 団 長

【消防功労者総務大臣表彰】

令和 5年 7月18日	瀬 棚 消 防 団	熊 野 主 税	団 長
-------------	-----------	---------	-----

【消防庁長官表彰】（功労章）

平成27年 3月 6日	瀬 棚 消 防 団	熊 野 主 税	団 長
令和 4年 3月 2日	北檜山消防団	酒 井 誠 一	団 長